

「ひの市民活動支援センターまつり」にぎやかに！

去る12月5日、恒例のひの市民活動支援センターまつりが開催されました。今回は支援センターが現在の場所に移転してから4回目の開催です。来場者は178名。運営には20の団体から50名以上がスタッフとして参加しました。特にNPO法人日野子ども劇場は10名を越えるスタッフが餅つき、子どもの遊びコーナーなど様々な催しに参加してまつりを盛り上げました。



お餅つき、フリーマーケット、模擬店、子どもの遊びコーナー、団体紹介の展示は今や恒例です。特にお餅

つきや子どもの遊びコーナーは大人気。終日多くの参加者で込み合っていました。

今年新たな取り組みとして、参加者にお餅引換券を兼ねた整理券を配り、正確な来場数の把握に努めたこと、支援センターへの関心度を測るアンケート調査をしたこと、寄付文化促進を目的としたコーナーを設けたことなどがありました。

当連絡会が支援センターまつりを開催することにはいろいろな目的があります。センターが様々な市民活動を支援する拠点であることと、ひの市民活動団体連絡会の加盟団体がどんな活動をしているのかを市民の方々に広く知っていただくこと、そしてまつりの企画と実行を通じて加盟団体相互の交流と連携を深めることです。楽しみながらそれぞれの目的を果たせたまつりであったと思います。

来場者へのアンケート調査では44名から回答がありました。来場者の住所は近隣の人だけでなく日野市内各地に分散しており、また全体の4分の1は市外からの参加でした。来場者の多くはたびたび支援センターを訪れていますが、16%は初めて来た人たちでした。

寄付コーナーでは8,513円の寄付が集まりました。



コーナーの目的は寄付という形で他者のために役立つ心を育むことです。今回は初めての試みで、十分な成果を上げられませんでした。多くの市民活動団体にとって活動を継続していくためには金銭的な支援が必要です。連絡会としては今後も寄付文化の醸成に力を入れていきます。

(今回の募金金額と贈呈先は表の通りです)

(広報部会湯口)

【寄付応募の集計】

寄付分野	金額	寄付金贈呈先
住みよいまちづくり	2,000円	市民サポートセンター日野 / 日野映像支援隊
障がい者・高齢者支援	1,371円	多摩IT普及会
子育て支援	3,000円	日野子ども劇場 子どもへのまなざし
自然・環境保全	1,111円	ひの・まちの生ごみを考える会
国際貢献	1,031円	シャプラニール (※)
合計	8,513円	

※東南アジアの貧しい子ども達を支援している認定NPO法人(本部：新宿区)



… 「ファンドレイジングセミナー」に参加して …

小俣 彰男 (NPO 法人子どもへのまなざし理事)



セミナー受講の動機

「どのように活動資金の確保をするか？」NPOの運営に携わっている人に共通する永遠のテーマである。この問いへの答え、いや、ヒントだけでも見つけたいという思いから、講演会「寄付文化の潮流」(当連絡会主催)に参加した。この会の講師：鶴尾雅隆さんのお話に惹かれ、「ファンドレイジングセミナー 2010」にヒントだけでももらえたら…という思いから参加した。

参加した感想？参加してよかった、大正解だった。

「どのように活動資金の確保をするか？」という問いかけへの回答やヒント？ヒントはもらいすぎて消化しきれないぐらい。回答は自分たちで、自分たちなりの回答を見つける、いや、作るものだ、ということがよくわかった。つまり、活動資金の確保の方法はそれぞれの団体なりのやり方がある、ということだ。



「ファンドレイジング」とは何なのか？

それは一言で言うと善意の資金を循環させる行為。循環させるためには自分たちの団体が、なにを目的に、なにを大事にして、どんな活動をしているかを『わかりやすく』世の中の人々に説明することが大切である。自分たちが関心のある社会問題に対する自分たち独自のアプローチが含まれているはずである。これらの考え方やアプローチもわかりやすく説明し、多くの人々に『納得』して『共感』してもらうことが、とても大切なことである。

共感していただいた人たちにさまざまな支援をお願いし、『支援者』となっていただく。一緒に活動する、活動の内容と一緒に広めてもらうなど、さまざまな『支援』の形がある。支援の形が「金銭支援」となる場合が「会員加入」や「寄付」という形になり、資金集めにつながる。『支援者』の方々からは『ご支援をいただき』。団体からはご支援いただいた『結果をフィードバックする』。これを団体なりのユニークな形で継続できると、支援者とのいい関係が継続し、支援者を増やすノウハウとなる。

ファンドレイジングとは、「資金集め」の部分だけを表す言葉ではなく、上記のすべての活動を指している考え方である。

「ファンドレイジングセミナー」の内容

どうだろう。「寄付集め」「資金確保」という言葉からこれだけ広い活動をイメージするだろうか？そして、上記の活動はNPOを運営するに当たっての大切な要素がたくさん詰まっていると感じられないだろうか？

連続セミナー(全6回)の内容も上記の要素を順を追って学べるようにプログラムされていた。詳しい内容について、ここでは報告しないが、最終回は、寄付税制などが変わりつつある現状を紹介。制度が変われば、劇的に寄付が増えるか？いや、制度の変化にNPOも対応できないと何も変わらないはず。自分たちが起こすべきアクションは何なのか？を考えるきっかけとなった。

「ファンドレイジング」をきっかけに

認定NPOに関する制度、寄付税制などもダイナミックな動きが始まろうとしている。この流れに乗るには、まずは自分たちが世の中にわかりやすいメッセージを伝えているか、伝える努力をしているかが問われる。「ファンドレイジング」をきっかけに、団体運営を考え直してみると、予想以上にいろいろなものが得られるだろう。

「NPOの運営に関わっている人がファンドレイジングを学ぶのは必須である」

皆様にも強くお勧めしたい。



… ファンドレイジングを学ぼう！…

【本の紹介】

「ファンドレイジングが社会を変える」
鶴尾雅隆著(三一書房)
鶴尾先生の著書は非常にわかりやすく、
ポイントがまとめてあるので必読

【関連ホームページ】

ファンドレイジング協会 : <http://jfra.jp/>
ファンドレイジングネット : <http://frn.jfra.jp/>

「講演会」を終えて

日野・発達障害を考える会「スキッパー」 代表 宮崎雅子

10月24日(日)多摩平の森ふれあい館で講演会を行いました。タイトルは「生きる力とコミュニケーションスキル」～伝えることをあきらめないで～。在米コミュニケーションセラピストのカニングハム久子先生を講師にお迎えしました。

スキッパーは、発足してから、まだ3年に満たない未熟な会ですが、高名な先生をお迎えできるということは、たいへん光栄なことだと思いました。先生のことを知っていた会員からの、「カニングハム先生は今までいくつもの講演会を聴きにいった中で、もっとも心に残っている講師の方であり、一筋縄ではいかないわが子に親として向き合う覚悟を決めさせてくれた方です。」という言葉に、皆、講演会に前向きに取り組みました。参加者も130名を超えました。多くの方に来ていただいたこと、心より、感謝しています。

先生のお話は、ほんの一部しか書けませんが、ここに紹介します。

どんな人間にも神性あるいは霊性があるということ。これは宗教をこえて普遍的なものであり、どんな人の中にも必ず存在する神性・霊性に向き合えば、決して相手

を傷つけたりすることは出来ないはず。相手の霊性に向かい言葉を発することで、思いやりのある言葉かけになり、そのことが癒しとなり生きる力となる。そこからコミュニケーションが生まれる。

また、「三分の一主義」のこと(人間として、母として、そしてユーモア、それぞれ三分の一ずつ自分のなかで配分して過ごす)。また最近の子供達が「相手を理解する力」とともに「理解されなかった時に耐える力」が弱くなってきたこと、電子ゲームをやり続けると発達障害が進むことがアメリカの研究で立証されていること…など、興味深いお話を次々にされていきました。

「障害があるということは マイナスの意味ではなくスペシャルなことであり、そうした子どもを持った親たちは、子どもを通して世の中を啓蒙していくミッションを与えられているのです」という先生のことばにこみ上げてくるものを抑えられなかった方も多かったようです。私たちは、ミッションを与えられたものなのだという先生の言葉をかみしめ、より多くの方に伝えていきたいと思っています。



○▼□参加団体活動紹介○▼□

NPO法人経営情報協議会

日本企業の大半を占める店主・小規模事業主及び中小企業主は、日本の経済を支える大きな柱です。これらを活性化することは、更なる日本経済を元気づける源となります。NPO法人経営情報協議会(NPO-KJK)は「情報やネットワークを活用した経営改革の支援活動」を行うことを活動の趣旨として活動しております。現在現役で活躍中の税理士、会計士、社会保険労務士、中小企業診断士、情報技術者、PM(プロジェクトマネジメント)等の専門家が経営管理・経営改革を支援しています。

【活動実績】

- ①セミナー開催：平山季重ふれあい館での「事業拡大を目指す店主・小規模事業主向け」セミナーを2,3か月毎にこれまで3回開催。
- ②研究活動：経営診断ツール研究・開発、内部統制の研究、労務管理の研究等
- ③中小企業支援：経済産業省主催「中小企業IT経営力大賞IT」出願支援

URL：<http://www.npo-kjk.org/daihyo.html>

代表理事 小野 順平

日野市音楽連盟

日野市音楽連盟は、元々合奏連盟としてスタートし、その後吹奏楽団体他がそれぞれ独立し、現在のような形になった。会員数は演奏家協会、バンド・フェスティバル協会、日野市カラオケ同好会などあわせて204名。主に市民文化祭が活動の中心だ。それぞれの団体は文化活動、特に演奏活動をしている。ボランティア活動も積極的で、すでに10年以上、老人介護施設「サルビア」他でのボランティア活動を、毎月意欲的に行っている。

代表 村上 敏雄



NPO法人に関する 情報公開について

NPO法人に関する情報については、法人認証を行っている各所轄庁ホームページなどで公開されています。

内閣府や東京都のホームページでは、基本情報（名称、法人所在地、代表者氏名、法人の目的、活動分野）のほか、定款、事業報告書、役員名簿などの情報が掲載されています。なお監督・指導があった場合の情報も掲載されます。

このような情報が広く市民の目に触れ、認識され

ることは、NPO法人の適正運用や自浄作用につながります。またNPO法人への関心が高まり、市民活動への参加促進が期待されます。

平成23年1月1日現在、日野市に主たる事務所を設置しているNPO法人は53団体あり、様々な分野で活動されています。これら団体の公開情報は、NPO法人の設立申請を検討している団体はもちろん、法人格の有無に関わらず、すでに公益的な市民活動を行っている団体にとっても、今後の活動の参考になると思いますので、どうぞご活用ください。

【NPO法人に関するホームページはこちら】

内閣府

<https://www.npo-homepage.go.jp/>

東京都生活文化スポーツ局

<http://www.npo.metro.tokyo.jp/>

「ひの市民活動団体連絡会」に 加盟しませんか？

ひの市民活動団体連絡会は、日野市を中心とする地域で社会貢献活動をする市民活動団体で構成され、いわゆる中間支援組織として個々の加盟団体の活動を支援するとともに、地域全体の市民活動の発展を期することを目指しています。

… 加盟している団体の声 …



事務所としても活用しています
(日野映像支援隊 中川)

会議の場所を探さなくていいので
助かります

(福祉カフェテリア 湯口)



コンビニで印刷しなくていいので、あ
りがたいです (日野市音楽連盟 村上)



分野の違う団体と知り合えました
(シニアネットクラブ 久保)

「ひの市民活動支援センター」のアクセス

当連絡会が管理運営をしています。

新たに市民活動団体を立ち上げる際のご相談も出来ます。詳しくは電話またはHPをご覧ください。



住所 日野市日野 1 3 6 9 - 2 7

電話/FAX . 0 4 2 - 5 8 1 - 6 1 4 4

ホームページ <http://hinokaturen.sakura.ne.jp/index.htm>

▼△▼ お知らせ ▲▽▲

* 第17回 ひの市民活動団体連絡会通常総会の日程

日時 23年4月17日(日) 14時~16時

場所 ひの市民活動支援センター

2F 会議室

会員の皆様、万障お繰り合わせの上ご出席下さい。



* 市民活動団体連絡会パネル展を開催

日時 23年2月24日~3月10日まで

場所 日野市役所 1F ホール

連絡会加盟団体の活動を広く市民の方々に知っていただくために毎年(年2回)開催しています。

編集後記

1ヵ月に一度の広報部会。本誌「連絡会ニュース」を発行することが主な仕事だ。皆、それぞれの活動を終えた夜に集まる。くたびれてどうしても体が動かない夜も、市民活動の大先輩が頑張っている姿を思うと休めない。丈夫だけが取り柄の私だが、この寒さで時々膝が痛む。そんなことを部会でつぶやくと「体操」や「ストレッチ」など様々な知恵を授けて下さった。連絡会に加盟していなかったら出会えなかったであろう人生の大先輩方からたくさんのお話を学ばせていただいている。(NPO法人子どもへのまなざし 中川)